

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報

第116号

井原市ブックスタート事業 5年目を経過して

井原市ブックスタート事業が平成20年6月から始まり、5年目を経過しました。

はじめに、この事業の成り立ちを紹介します。

平成13年11月から「絵本と出会う親子ふれあい事業」として、4か月・1歳6か月健診・3歳児健診にて保健士、図書館司書が読み聞かせや絵本を通したふれあいの大切さを伝えていました。また、美星町では、平成16年度から中央公民館が主体で取り組み、平成17年度には自治公民館活動の一端としてワーキンググループを結成して、ブックスタートを実施していました。

平成17年3月に策定した「井原市子ども読書推進計画～いばらいきいき読書プラン～」に子どもと絵本の出会いの支援としてブックスタートを記載し、平成19年6月には生涯学習課が主管で

「井原子ども読書推進実行委員会」が立ち上げられたことで、すべての子ども達が読書に親しむための環境をつくる土台が出来上りました。

そこで、平成20年3月からブックスタート事業実施に向けて、図書館・井原保健センター・生涯学習課で打ち合わせを開始。4月には子ども読書



〈2人一組で絵本の楽しさを伝えています〉

推進実行委員による絵本の選定、ボランティアの募集、実施マニュアルの作成を行い、5月にはNPO講師によるボランティア及び関係者の研修会を開催。関係機関とボランティアが一体的に推進することで現在に至っています。

ここで、ブックスタートボランティアの声を聞きたいと思います。………

「絵本を読んで笑

顔でいる子もいれば、泣きじやくる子もいて絵本を通じて、色々な親子に出会うことで自分自身暖かい気持ちになれる。その気持ちがブックスタートをすることで伝わればいいなあと思った。」

「忠実に読む事がいいと思っていたが、語り、話しながら読む親子の時間も大切だと感じた。」

「ボランティアを始めて間もないが、家族と赤ちゃんの心地よい関係性がうかがい知ることができ、嬉しくなる………。」

ボランティアが加わり、赤ちゃんの幸せを願う地域の人がいることに気づくことで、保護者も安心して子育てができる事を知り、自分の住むまちにもっと愛着を持つてもらえばと思います。

また、ブックスタートを受けた保護者から、年齢に合った絵本を選ぶのに苦労しているという声から『図書館おすすめの年齢別絵本ガイド』を作成し、配布しました。その後、親子だけではなく、祖父母の方も絵本ガイドを手に、図書館に来られる姿を見かける機会が増えました。

保護者には、赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむことにもともと関心がある人と、そうでない人がいます。赤ちゃんの生まれた環境にかかわらず、大好きな人と絵本を開くきっかけを、すべての赤ちゃんと保護者の皆さんに今後も続けて届けていきます。 (井原市井原図書館 津島一視)



浅口市立寄島図書館新春企画 「本の福袋」

連日の酷暑と、市の学力向上No.1プロジェクトのお陰か、いつもより賑わう館内を、忙しくも嬉しく感じております今日この頃。

…さて、それでは本題に参りましょう。【本の福袋】という企画をはじめたきっかけ、あれは赴任して2年目、職員全員（といっても4名）で利用者拡大に知恵を絞っていた時のこと。

その年の暮れ、昼休み中の何気ない会話だったかと記憶しています。

「どこかの図書館が、本のタイトルが見えない状態で袋詰めしそれを貸出してるって、何かで見たよ」

「中身は、職員が選書して、袋の表にテーマだけ書いてあるんだって」

「おもしろそう！オススメ本、たくさんあるし！」

お正月明けに並べましょう、なんだか福袋みたいでワクワクするね、ということで、その名も【本の福袋】企画…。あれよあれよという間に進み、館長の承諾を得て、早速並べてみるとなりました。

テーマは様々、昨今流行りの「ミステリー」、爽やかな「スポーツ」もの、しんみりと「泣ける話」、笑う門には「抱腹絶倒、初笑い！」、忘れちゃいけない「美味しい」お話など、二十袋分。中身がまったく見えませんので、紙袋の表にはテーマとともに、選んでいただけるような魅力的な言葉を一〇〇文字程添えました。

小説に限らず、実用書・絵本も取り混ぜた選りすぐりの3冊は、浅口市内の鴨方図書館と金光さつき図書館の協力を受け、3館のいずれかに所蔵の本で構成。寄島図書館の蔵書だけでは少し寂しいと思っていたので、快く協力し、アドバイスまでくれた2館の職員にも、助けてもらいました。

さて年が明け、二十袋を並べて（上写真）待つこと暫し、「これ何？」さっそくお声が掛かりました。

「また新しいことてるの？頑張るね！」
とカウンターでの話題もでき、嬉しい気持ちに。

そして、思わずところでも反応がありました。

平成24年2月4日付の山陽新聞朝刊の「ちまた



欄」に、この企画のことを投稿してくださった方がいたのです！とても好意的に、瀬戸内海の見える図書館へ来館されてみては、との文言でくわられており、実際に「新聞記事を見て、来てみたんだけど」という利用者もいらっしゃいました。

企画1年目の掴みは上々、幸先の良いスタートをきることができました。勿論、反省点もありましたので、来年はもっと良い企画になるように！と抱負を掲げた1月は、あつという間に過ぎてゆきました。

その年の暮れ、さて2年目はどうしよう。

…実は、アイデアを温めていました。

8月の「夏休みお楽しみ会」での工作、新聞紙を使ったエコバッグ作り。作り方はとっても簡単、しかも案外丈夫です。これを使わぬ手はないと作りためおいたものに、いそいそと本を詰めました。

年が明け、並べた【本の福袋】は、勢い余って二十三袋。テーマは昨年よりも簡潔に、「海」「未来」「思い出」など3文字以内とし、エコバッグの表に大書した紙を、テープで張り付けました。折角のエコバッグ、繰り返し使っていただけるように、はがし易いマスキングテープを採用。

「去年も楽しく読ませてもらったよ。」

「どれにしようかな、一番のオススメは？」
と、今年もまた嬉しい反響がありました。

試行錯誤の3年目、さて今年はどんなオススメ本を入れようかと、丸秘の読書ノートをめくっては、タイトルの横に記した◎・○・△の印を楽しく見返すこの頃です。

（浅口市立寄島図書館 高橋美恵）

倉敷市立中央図書館30周年！

1. 30年前のエピソード

倉敷市立中央図書館は、現在地に昭和58年11月3日、開館しました。30年前を知る職員から聞いた逸話を披露いたします。

昭和53年、旧倉敷市庁舎跡地利用の検討を開始。昭和57年には新図書館の建築が決定されました。

新図書館からコンピュータを導入していますが、なんと導入話は一旦なくなりかけたようです。その後急展開で導入が決定、機種選定プロジェクトチーム発足が58年3月で、準備期間が短く職員はおおわらわでしたが、蔵書数・利用数増大に対応するのにコンピュータは必須ですから、新館移転準備と併せて短期集中で取り組みました。

また、開館と同時に移動図書館サービスを開始しました。車体を『11ぴきのねこ』のイラストで飾りたいと、事務処理について話を聞きに出向いたのは、倉敷清掃センターの事務所でした。なぜなら先行してゴミ収集車にイラストを描いていたからです。

怒涛のような準備期間を経て、両隣の倉敷市立展示美術館（現倉敷市立美術館）・倉敷市立自然史博物館と同時開館の運びとなりました。

開館してからも慣れないコンピュータ操作に戸惑いつつ、大勢の来館者の対応をしていました。新規登録者の入力が追い付かず、情報管理室に相談し



たら急遽キー
パンチャー2
名を派遣して
もらえること
になり、利用
者本登録を専
門にしてもら
いました。

さて、開館当時の写真（上）では、屋根が黒々として見えると思います。現在は深い色に変化しており、市民の方から数年前「茶色に錆びついている」との苦言を頂戴しました。しかし実はあれは、美しい錆色になるよう建築当時に計算されていたのです。

「風情が出てきた」と感じていただけれど幸いです。

旧倉敷図書館の閲覧室は、今の感覚では事務室のようでしたから、近代的になったものだと喜ばれました。

2. 30周年記念行事

かくして平成25年11月3日には無事開館30周年を迎える予定です。この場をお借りして、記念として企画している行事の一部をご紹介します。

*その1 岡山市立中央図書館との交換展示

岡山市立中央図書館も開館30周年を迎えます。これを記念して、互いの特色ある郷土資料を交換展示します。両館とも9月26日（木）まで展示中。

倉敷市立中央図書館では月岡芳年作「高松城水攻築堤の図」などを展示しています。岡山市立中央図書館では三島中洲関連の五言絶句扇面「噴泉如白霧云々」などを展示しています。

*その2 昭和・倉敷の写真展

昭和58年頃に倉敷市内で撮影した写真を募集し、9月28日～10月24日に展示します。当時を懐かしんでもらえる展示を目指します。

*その3 あなたが選ぶ倉敷中央図書館大賞

過去30回の直木賞で候補となりながら落選した137作品から、推薦作を投票してもらいます。締切は10月15日。11月に発表します。

*その4 絵図で歩く倉敷のまち

11月1日（金）午前10時15分～講演

午後1時15分～まち歩き

『絵図で歩く倉敷のまち』（吉備人出版）の執筆・監修者3名を講師にお迎えして、倉敷のまちづくりのお話と、中央図書館付近を歩きながらの解説をしていただきます。

*その5 講演会「楽しい天気と防災の話」

11月9日（土）午後2時～

ちくわ笛の演奏で有名な、気象予報士でもある住宅正人氏に、天気と防災について楽しくお話ししていただきます。

皆様のおかげで30年やってまいりました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

（倉敷市立中央図書館 寺前華奈江）

瀬戸内国際芸術祭との連携

本年、岡山・香川県内の瀬戸内海の十二の島々を中心として、瀬戸内国際芸術祭 2013 が開催されています。春会期（3月 20 日～4月 21 日）、夏会期（7月 20 日～9月 1 日）、秋会期（10月 5 日～11月 4 日）の三期間にわたり、国内外のアーティストによる様々な芸術作品の展示・上演が行われるこのイベントにおいて、玉野市立図書館の所在地である玉野市宇野も会場の一つとなっています。これを受け、瀬戸内国際芸術祭を図書館利用者の方々にPRすること、また、会場となる瀬戸内海の島々をより深く知っていただくことを目的とし、1階の分室「憩いの読書室」において、夏・秋会期中「島めぐり 瀬戸内」という図書展示を行うとともに、その一部として瀬戸内国際芸術祭特集コーナーを設けました。

こちらのコーナーには、まず、地元の会場となる宇野港周辺の図を作成して掲示し（右写真）、インフォメーションセンターの位置や、「宇野のチヌ」「街中写真プロジェクト」などの作品の写真とともに、それらがどこに展示されているのかを示しました。作品の写真は、玉野市の有志で構成される芸術祭のボランティアグループ「おもてなし隊」の研修に当館職員が同行して撮影したものです。

さらに、玉野市商工観光課に依頼し、瀬戸内国際芸術祭の夏・秋会期公式パンフレット（右上写真）をはじめ、宇野会場の展示・イベント・土産物を掲載した「宇野港周辺会場マップ」、芸術祭の情報の他に玉野の観光スポット・グルメなども併せて紹介してある無料小冊子「玉野じやらん」を取り寄せ、利用者の方々が自由に持ち帰ることができますようにしました。

展示資料の内容は、瀬戸内国際芸術祭の公式ガ



イドブックに加え、瀬戸内海やしまなみ海道の旅行案内をまとめています。また、芸術祭を特集した雑誌に加え、瀬戸内の島々に所在する美術館についての記事が掲載された雑誌も過去に遡って展示しています。その他にも、瀬戸内海の島歩きの紀行本（『ちょこ旅瀬戸内』『瀬戸の島あるき』『島さんぽ』など）、瀬戸内海周辺がロケ地となっている映画について解説された本（『瀬戸内シネマ散歩一・二』）、そして瀬戸内を舞台とした小説作品（『二十四の瞳』『瀬戸内少年野球団』『島はぼくらと』など）、さらには瀬戸内の食材で作る料理の本（『小豆島オリーブ農家井上誠耕園のカラダにおいしいオリーブオイル・レシピ』）など、様々な角度から瀬戸内海の島々にスポットを当てた資料を揃えています。

この展示資料一覧は、玉野市立図書館ホームページからも確認することができるよう掲載しています。まだ会期半ばですが、利用者の方から「大きな地図があってわかりやすい」との声があったほか、実際に芸術祭に足を運んだ方が「ここへ行ってきた」と話してくださったりと、多くの方の目に留めていただけているようです。引き続き秋会期に向け、島や美術館だけではなく、個々の参加アーティストに関する資料も掘り下げていくこととしています。

今回の展示を通して、地元である玉野や瀬戸内海の島々に興味を持っていたいただくと共に、図書館が様々な情報を収集・発信していることをより多くの方にアピールする機会になればと考えています。

（玉野市立図書館　金嶋彩子）

美作国建国 1300 年事業の取り組み ～特集展示「奈義町と美作国の民話・伝説」～

平成 25 年は、美作国建国 1300 年にあたります。『続日本紀』和銅 6 (713) 年 4 月の記事には、備前国六郡を割いて美作国を置く、との記述が残っています。創建にちなんで、美作地方全体で年間を通じてさまざまな記念事業が開かれています。

奈義町出身の漫画家岸本斉史さんによる人気コミック「NARUTO—ナルト—」とのタイアップ事業や J R 津山線にラッピング車両を導入するなど、注目のイベントが目白押しです。

当館併設の町現代美術館でも、三部構成で「N A R U T O 展」を開催しており、現在開催中の第二部(9月 29 日まで)では、アニメ版 NARUTO のセル画、設定資料、原作コミックの生原稿などをご覧いただけます。冬には第三部(2 月 15 日～3 月 16 日)が開催予定です。

図書館に目を向けてみると、津山市立図書館の呼びかけで県北各館(津山市・真庭市・美作市・久米南町・勝央町・奈義町)が協力して、それぞれに特色を生かした資料コーナーの設置やパネル展示等を行っています。



奈義町には、美作地方を代表する民話であり、地域の英雄がモデルといわれる巨人伝説「さんぶ太郎」をはじめ、力持ちの吉光九郎兵衛(よしみつくろうべえ)をモデルにした「くろべえの力持ち」など、数多くの民話・伝説が語り伝えられています。

当館では、これらの伝承にちなんで「奈義町と美

作国の民話・伝説」というテーマで、特集コーナーの設置及びパネル展示を行っています。

巨人さんぶ太郎の立体看板(左下写真)、美作国建国の謂れや奈義町の民話・伝説を紹介したパネルのほか、資料を〈奈義町のお話〉〈美作地方のお話〉

〈全国の類似のお話〉(民話伝説の理解に役立つ関連書)の四つのサブジャンルに分け、展示しています。



郷土資料を中心とした一般書架の関連書も含めて二百冊程度の小さいコーナー(左写真)ですが、

時期によっては資料の半数近くが貸出いでいる場合もあり、当初の予想以上に多くの方に注目していただいていると感じています。

分類ごとでばらばらに配架されていたり閉架書庫に保存されている資料を、ひとつのテーマでまとめて提案し直すことで、来館者にとって「こんな本があったのか」という再発見につながっているのではないかと思います。

また、コーナーの設置に併せて、同名の特集を組んだ機関紙(図書館だより ふえるまたあ)の発行、町内の防災行政無線や「奈義ちゃんねる(※)」を通じた案内、図書館 Web サイトで関連資料をテーマ検索できるページを設けるなど、積極的な広報に努めたことや地元の新聞で紹介していただいたことなどが、利用者の関心につながっていると思われます。

当館では、今回の企画展示を通じて、来館される皆さんにとって、郷土の民話・伝説の魅力を再発見するきっかけにつながることを願っています。

また、期間中は、県北各館でそれぞれに特色ある関連事業が開かれていますので、お休みを利用して図書館巡りをされてはいかがでしょうか。

(奈義町立図書館 松村 謙)

※町内各戸に設置され、役場からの行事案内や防災情報などが液晶画面に表示されるほか、通話、インターネットの閲覧にも使用できる多機能情報端末。

県団協セミナー（平成24年度第3回）報告

「本の補修と資料保存」

講師：岡山県立図書館 資料保存・整理技術
研究グループ 中畠友希氏 引野麻子氏
日時：平成25年2月11日 13:30～15:30
会場：岡山県立図書館
図書館に勤務する上で欠かせない本の修理や資料保存について、基礎知識と技術を学ぶ講座でした。図書館では日々利用しながら資料保存していく必要があります。

まず「防ぐ」という観点から、皆さんは書架から本を取り出すとき、本の背の頭に指をかけて取り出したり、ページに化学糊のついた付箋を貼つていませんか。日頃のちょっととした取り扱い方を見直すことも有効だと再認識しました。

そして「治す」場合、普段は破れたページや外れたページを発見したら、木工用ボンドや補修テープで速やかに手当することが多いですが、今回

は和紙とでんぶん糊を使用した方法を学ぶことができました。慣れない手つきで、水で薄めた糊を傍らに、和紙を薄く裂き、へらや平筆を使って手順を追って補修してみたところ、その仕上がりのきれいさに驚きました。資料によっては、このように時間はかかりますが丁寧に補修する技術を知っておくことも必要だと思います。

また全国図書館大会の報告として、水濡れ資料の応急処置法について紹介があり参考になりました。
(岡山県立図書館 松本由美)



〈当日使用した補修用具一式〉

県団協セミナー（第1回）報告

「現場からの図書館学 —私の図書館人生を顧みて」

講師：伊藤昭治氏
元阪南大学教授、茨木市立中央図書館長
日時：平成25年6月3日 13:30～15:30
会場：岡山県立図書館
定期総会の午後、今年度第1回目のセミナーは、図書館人として常に現場から実践し発言してこられた伊藤昭治氏をお迎えし、御講演をいただきました。

50年前伊藤氏が就職当時の図書館は、閉架式で初めての仕事は書庫出納だったそうです。しかし、せっかく出納してもほとんどがすぐに返却されてしまうので、目録について実態調査を行い、どうすれば求める本が的確に提供できるか研究し、雑誌「図書館界」に初めて論文を発表されていま

す。後に神戸市新図書館建設で、今ではめずらしくないでしょうが、当時としては画期的な30万冊という大規模開架を実践。さらに、一度も借りられなかつた本の分析を行うなど、現場から様々な実態調査と分析を積み重ね、常に利用者にとって図書館はどうあるべきかを考え続け、実践して来られた、その図書館人生に圧倒されました。30年以上前に結成した研究グループは、仲間とともに現在も続けられているそうです。

現状を客観的に把握し、そこから導き出されるサービスを追求していくことこそ、今の図書館員にも必要とされていることだと思います。そして、「愛される図書館を作るために図書館員が果たす役割は何か」「日本の図書館に欠けているものはなんだと思いますか」そんな質問に、自分はどう答えることができるか。基本理念に立ち返ることの大切さ、重さを考えさせられました。

(事務局)

個人会員紹介☆佐藤 美子さん 『岡山県図書館協会との出会い』

私が、初めて岡山県図書館協会の個人会員になったのは、かれこれ二十数年前になります。

当時、岡山県図書館協会の存在は知っていましたが、個人会員という枠があることは知りませんでした。そんなとき勤め先の短期大学に館長として就任された故・黒崎義博館長から、個人会員へのお誘いを受けたことがきっかけでした。先生は、岡山の図書館界に多大な尽力をされた方ですが、当時は知るすべもありません。しかし、平易な語り口の中に図書館に対するあつい情熱を感じて、すごくエネルギーのある方だと思っていました。

中でも特に印象的だったのは、司書のお話でした。「図書館を生きた図書館にするには、そこで働く司書の姿勢が大事である。本を知り利用者を知ること、そして司書同士が手をむすび、互いに高めていくことが大事。」「岡山県図書館協会には

個人会員があるのはそのために必要なのだ。」と。会報のバックナンバーに、先生の投稿記事がありました。十年ほど前の記事ですが、今日のIT時代を見据えていたような内容で、「図書館は読書だけでなく、人と知識、人と人のふれ合いから豊かな人間性と知恵をはぐくみ、人間が人間らしく生きる為の母体である」そして、「情報機器を上手に利用しながら、21世紀を図書館の時代にする責任があります。」とかかっています。先生が、今日のIT機器がもたらす膨大な情報をまるで見越していたようではっとさせられました。

一方、一昨年から、私が勤めている倉敷市でも学校図書館システムとして、コンピュータによる運営が稼働し、貸出、返却など様々な業務がコンピュータにとってかわってきています。便利さに流されてしまいがちですが、先生の言葉にあった「図書館の責任」について、今一度図書館のあるべき姿について、かみしめながら実践していくいと思うこの頃です。 (倉敷市立大高小学校)

※一部、岡山のとしょかん No. 85 より引用

個人会員紹介☆平田 涼子さん 『発見の毎日』

岡山県立図書館の児童資料部門に配属されてから半年が経過しました。日々子どもたちの元気な勢いに圧倒されながら働いています。その中で気づいたこと、感心したことなどを書きたいと思います。

まず、感心したこと。館内OPACを手慣れた様子で操作する子どもたちです。こどもとしょしつに入ってくると同時に幼稚園くらいの小さな子でもパソコンの方に向かって行き、読みたい本を探しています。そして、お目当ての本の情報を引き出せたなら、レシートを出して、カウンターまでとことこやってきて職員に差し出すのです。その慣れた様子に図書館をよく利用していることがうかがえます。また、小さくても自分で欲しい情報を引き出せることにデジタルネイティブの何たるかを実感します。

次に、驚いたこと。『かいけつゾロリ』シリーズ

の人気の高さです。児童サービスに従事している方であれば、当然のことかもしれません。しかし、児童サービスに関わり始めて浅い私にはこの人気の高さは驚きでした。どれほどの人気の高さかと言えば、配属されて半年、毎日最低一回は「かいけつゾロリはないの」という質問を聞くほどです。

最後に、多言語の資料も利用されていること。当館は英語以外の言語、韓国語や中国語など多言語の絵本も多く収集しています。しかし、カウンター業務に就く前は利用が少ないので思っていました。ところが、実際児童カウンターで貸出・返却の作業をしていると予想以上に多言語の絵本が利用されていることに気付きました。英語の絵本はよく利用されていますが、それ以外の言語も頻度こそ低くなるものの、全く手に取られないこともないようです。日本語で出版されている絵本の原書や、逆に日本の絵本を各言語に翻訳して出版されている絵本も多く所蔵しています。今後利用促進についていい案を出せたらと思います。 (岡山県立図書館)

事務局からのお知らせ

■理事会・定期総会

平成25年度理事会を5月16日に、定期総会を6月3日に開催しました。当日資料および議事録は、協会ホームページで公開しています。

【平成25・26年度役員（敬称・役職略）】

会長	(施) 岡山県立図書館	三村 修
副会長	(施) 岡山市立図書館	宮本 嘉彦
〃	(施) 岡山大学附属図書館	沖 陽子
理事	(施) 倉敷市立図書館	玄馬 正雄
〃	(施) 総社市図書館	加藤 信二
〃	(施) 新見公立大学図書館	原田 信之
〃	(施) 金光図書館	金光 英子
〃	(個) 学校司書	二部野陽子
〃	(個) 青年図書館員研修会	田中久美子
〃	(個) JLA代議員	菱川 廣光
監事	(施) 津山市立図書館	大倉 淳一
〃	(施) 早島町立図書館	黒瀬 英樹
参与	岡山県教育庁生涯学習課長	久芳 全晴
〈※(施)施設会員、(個)個人会員の略〉		

■平成25年度図書館功労者表彰

個人会員として図書館業務に従事貢献した次の方を表彰しました。（敬称略）

安藤 伸江	・	萊崎 直子	・	大林 美園
菊入 典子	・	中畑 友希	・	原田 栄一
平尾 明子	・	山田 智美	・	湯浅 恵子

■本年度の研修

○県団協セミナー（第1回） 6月3日

「現場からの図書館学—私の図書館人生を顧みて」

講師：伊藤 昭治氏

（元阪南大学教授、茨木市立中央図書館長）

参加者：55名 〈P. 6参照〉

○県団協セミナー（第2回） 8月29日

「プロから学ぶ図書館員のための

「デザイン力アップセミナー」

講師：松尾 浩司氏、河内 猛氏

（株式会社ビザビコミュニケーションズ）

参加者：52名

○教養講座

テーマ 連続講座 『岡山を知る』

12月4日 講座① 「岡山の古文献」

講師：別府信吾氏（岡山地方史研究会会員）

12月5日 講座② 「郷土研究の楽しみ」

講師：赤井克己氏（郷土史研究家）

12月6日 講座③ 「岡山の経済と文化」

講師：在間宣久氏（前岡山県立記録資料館長）

○県団協セミナー（第3回） 2月13日（予定）

「本の修理と資料保存」

■平成25年度企画委員

委員長 閔 瞳（勝央図書館）

副委員長 金光 研治（金光図書館）

委員 新宮 真也（岡山県立図書館）

〃 杉野 築（岡山市立中央図書館）

〃 寺前華奈江（倉敷市立中央図書館）

〃 小郷原良美（玉野市立図書館）

〃 津島 一視（井原市立図書館）

〃 山田 敏子（岡山県立大学附属図書館）

〃 中山千佳子（津山工業高等専門学校図書館）

■参加者・派遣者を募集！

○研修参加助成事業による平成25年度の派遣者を募集しています。

○平成26年度研究奨励金の交付申請者を募集しています。

詳しくは、協会ホームページをご覧ください。

■事務局より

定期総会では、役員組織の見直しや研修、事業等のご意見を多数頂戴しました。ありがとうございました。これらのご意見をいかしながら、会員の皆様とともに協会運営に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

平成25年9月30日発行

〒700-0823

岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 三村 修

TEL：086-224-1286